

2004年度決算説明会

三菱ガス化学株式会社

2005年5月18日

本日の出席者

取締役社長

小高 英紀

取締役

常務執行役員

川崎 敏雄

取締役

常務執行役員

上松 正次

取締役

常務執行役員

梅村 俊和

取締役

常務執行役員

酒井 和夫

執行役員

畑 仁

本日の進行次第・配付資料

進行次第

1. 2004年度決算等 説明
2. 質疑応答

配付資料

- ・説明スライド コピー
- ・決算説明会参考資料
- ・2004年度 決算短信
- ・ニュース・クリッピング集
- ・アンケート用紙
- ・封筒

連結 2004年度実績 総括

【単位:億円】

	2004年度 実績	2003年度 実績	増減
売上高	3,886	3,407	479
営業利益	309	149	159
経常利益 (内、持分法利益)	377 (118)	189 (92)	188 (27)
税前利益	293	150	143
当期純利益	233	106	127

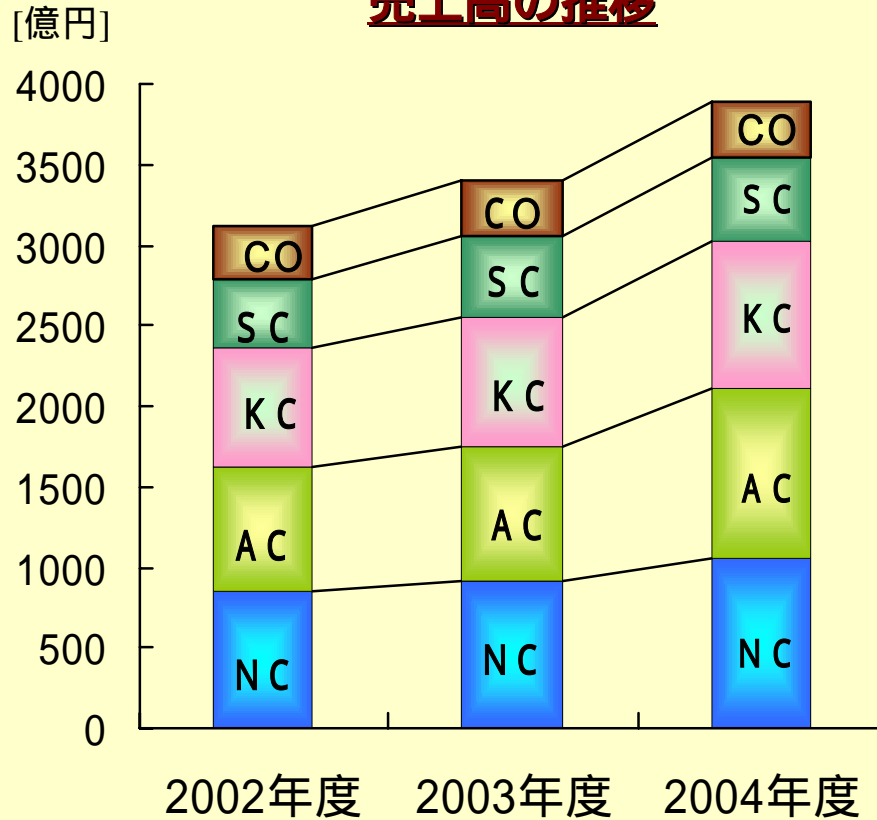
コメント

- A) 売上高は前期比 + 479億。
数量要因が約4割、単価要因が約6割。
- B) 原燃料価格が高騰、高水準で推移。
- C) 原料・仕入れ価格上昇によるコスト増は、販売価格上昇でカバー。
- D) メタノール価格の高値推移で、海外メタノール会社の持分法利益は増加。
- E) 特別損失は90億円。このうち研究所の再編、電材・情報機能材の構造改善に伴う費用が全体の6割を占める。

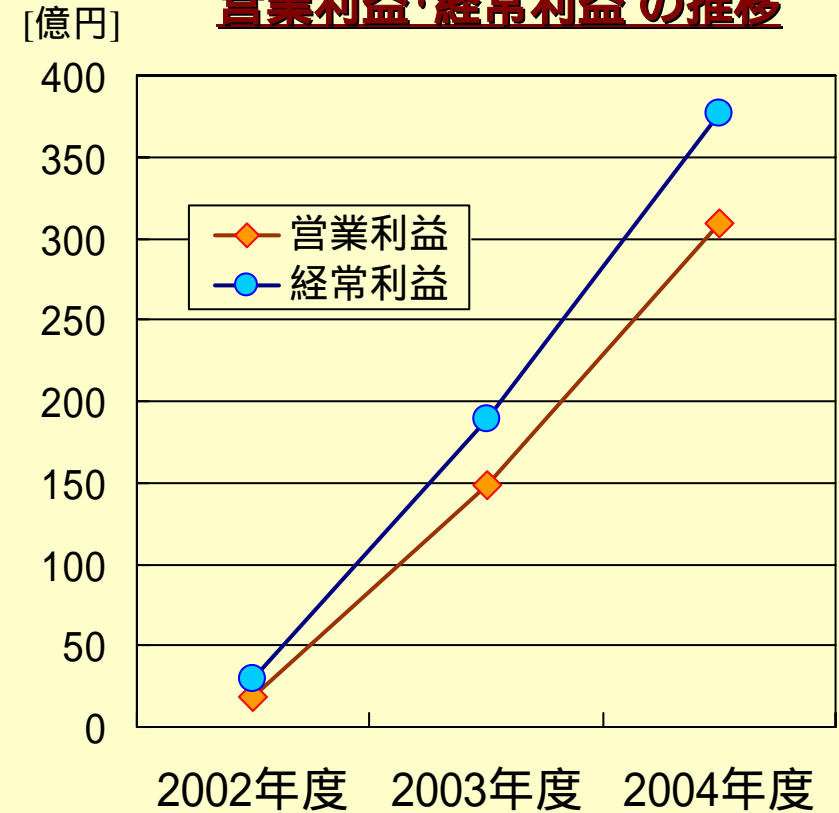
期末総資産	4946	4,751	195
有利子負債	1,671	1,843	172

連結 2004年度実績 総括

売上高の推移



営業利益・経常利益の推移



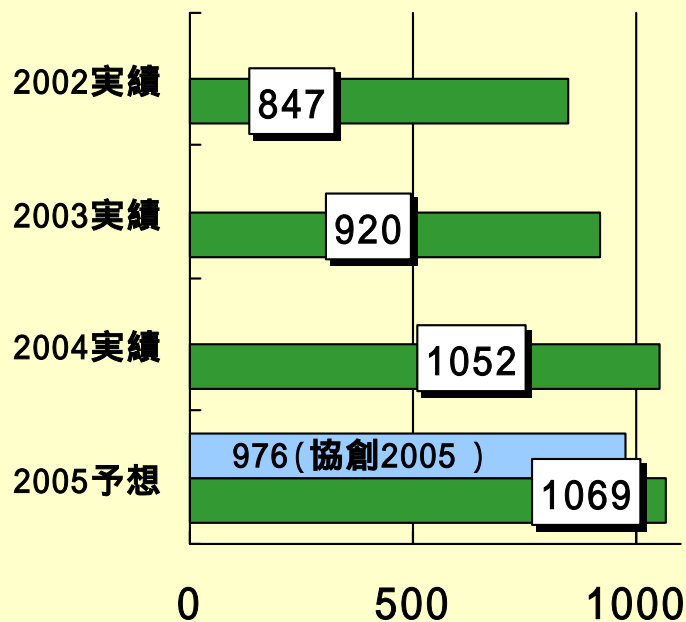
NC:天然ガス系化学品カンパニー
AC:芳香族化学品カンパニー

KC:機能化学品カンパニー
SC:特殊機能材カンパニー

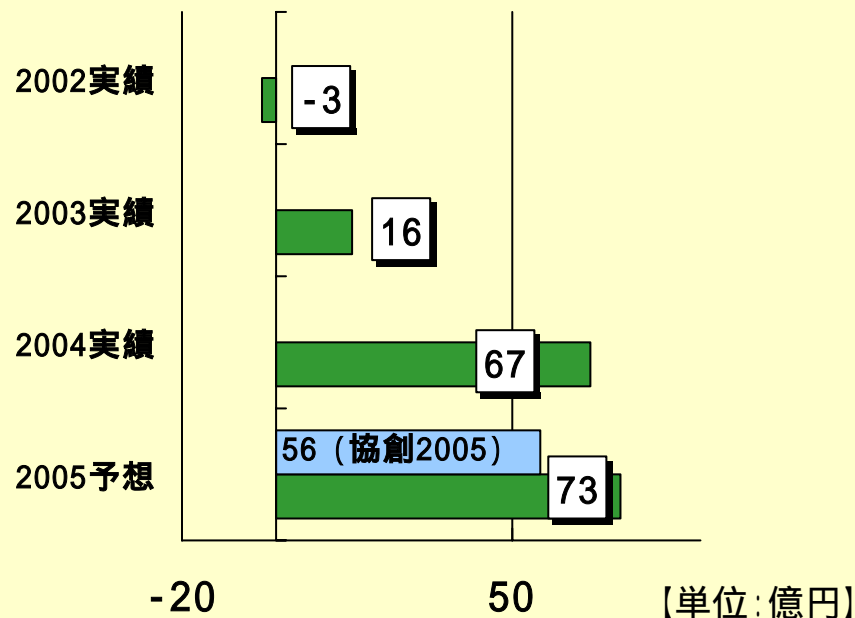
CO:コーポレート等

天然ガス系化学品カンパニー

売上高



営業利益



【単位: 億円】

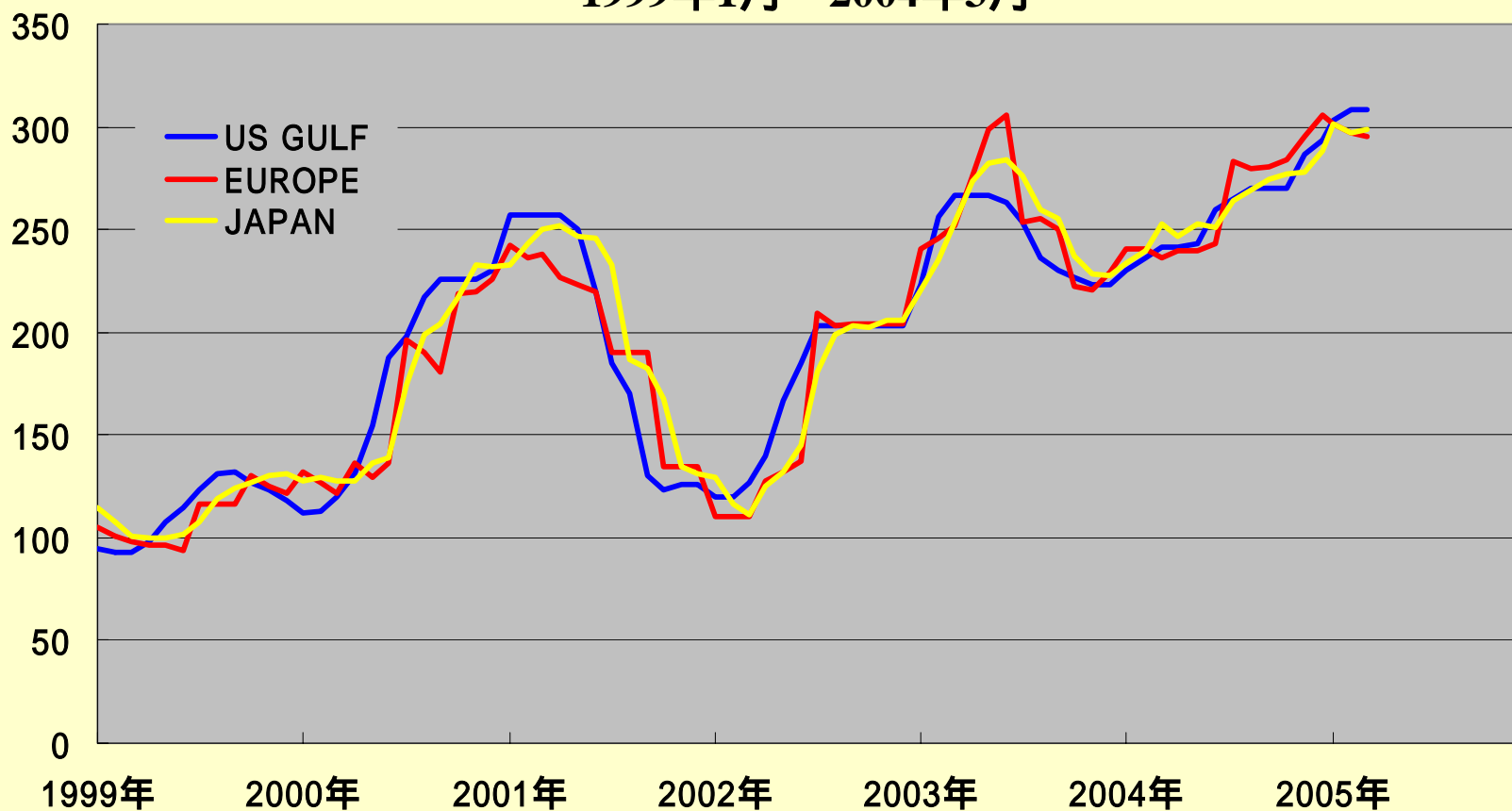
- 原料メタノールが高値で推移も、誘導品の採算は維持または改善。
- MMA、ポリオール、コエンザイムQ₁₀は需給タイトを反映し、大幅な増収・増益。
- メタノール価格の高騰で、持分法投資利益が増加。

メタノール国際市況

天然ガス系化学品カンパニー

[US\$/MT]

1999年1月～2004年3月



実績値 : USGULF、EUROPE …各種ニュースターより JAPAN …通関統計より

MMA、ポリオール

天然ガス系化学品カンパニー

MMA事業

MMA事業の構造改革

～2003年度:生産能力の増強、原単位改善
2004年度:初期投資の償却完了

- ・原料(メタノール、アセトン)価格の高値推移に伴い、販売価格が上昇
- ・需要(透明樹脂、塗料)は好調

2004年度は
収益が大幅に改善

2005年度は
さらに減価償却費減、
合理化の推進

ポリオール事業(TMP・NPG)

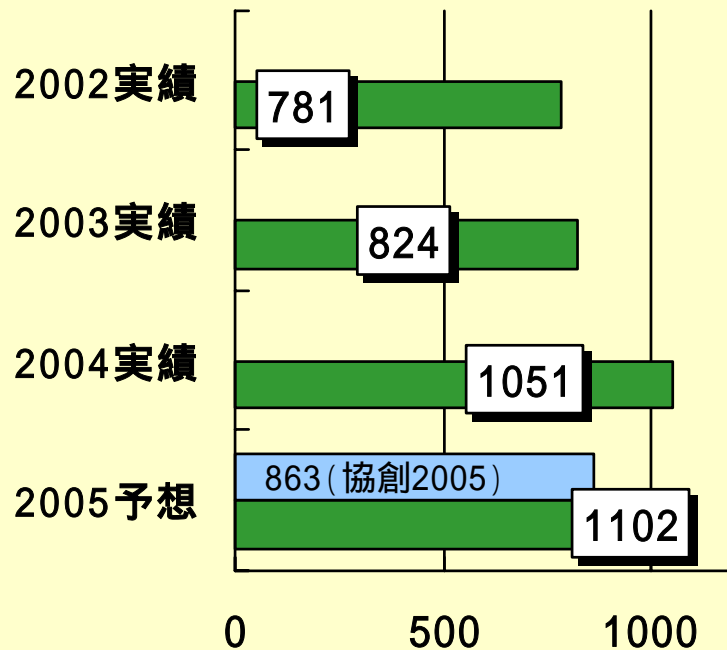
- ・原料(メタノール)価格の高値推移に伴い、販売価格が上昇
- ・需要好調、特に中国

大幅増収・増益

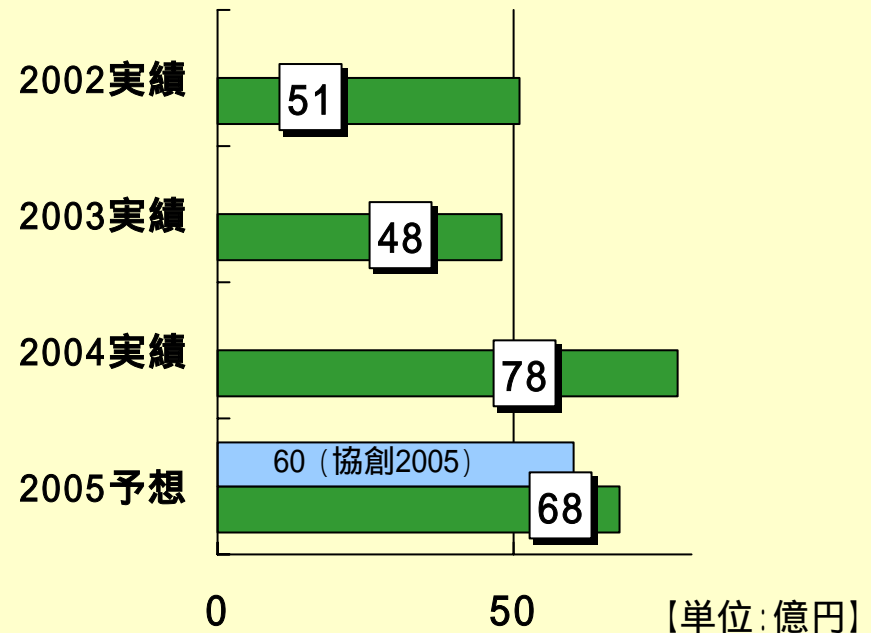
2005年度も
同じ基調が続く

芳香族化学品カンパニー

売上高



営業利益



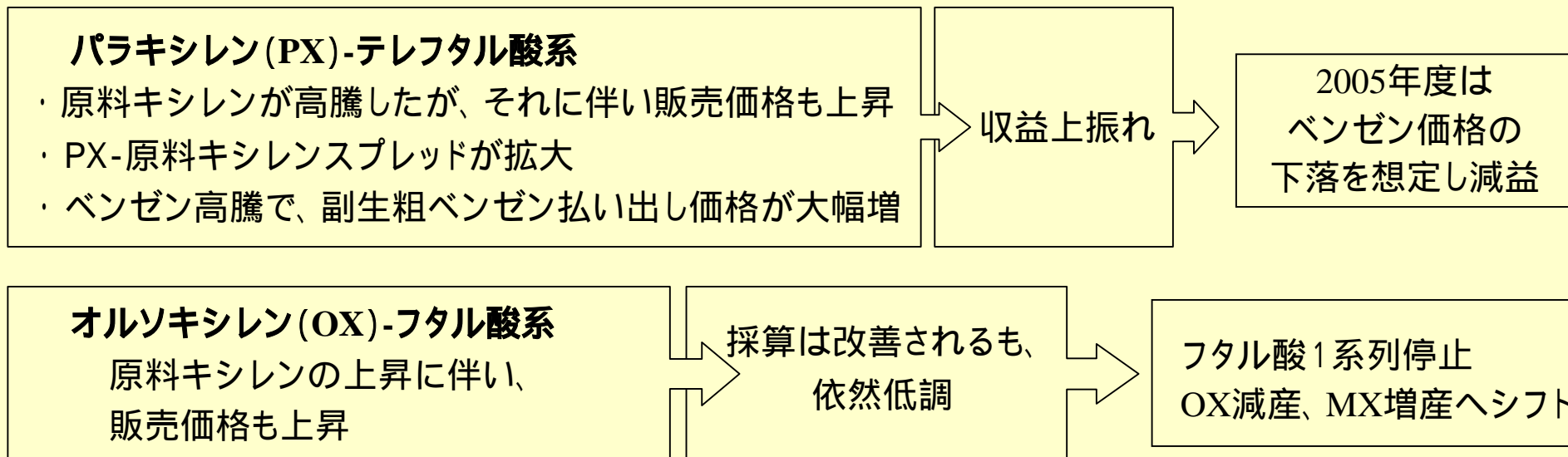
- 原料キシレンが高騰したが、販売価格も連動して上昇。
- 副産物控除のベンゼン価格が高騰し、利益が大幅に増加。
- メタキシレン系を含む特殊芳香族は堅調に推移。

パラキシレン系・オルソキシレン系

芳香族化学品カンパニー

参考価格	2003実績		2004実績		2005予想	
	上	下	上	下	上	下
パラキシレン ACP (円/kg)	72	73	89	102	101	101
原料キシレン公示価格 (円/kg)	45	47	59	67	68	68
ベンゼン CFR台湾 (円/kg)	47	57	101	96	82	82

ACP = Asian Contract Price



メタキシレン系

芳香族化学品カンパニー

イソフタル酸

需要好調

休止プラントを再稼動
イソフタル酸製造・販売会社AGIC社
(生産能力 70,000 t/y 120,000 t/y)

2005年度もさらに
増産・拡販

MXDA

欧州にて、エポキシ硬化剤向けが好調

2005年度は
・北米のMXナイロンプラント向け
も含め、数量増加
・MXDAプラント新設を検討

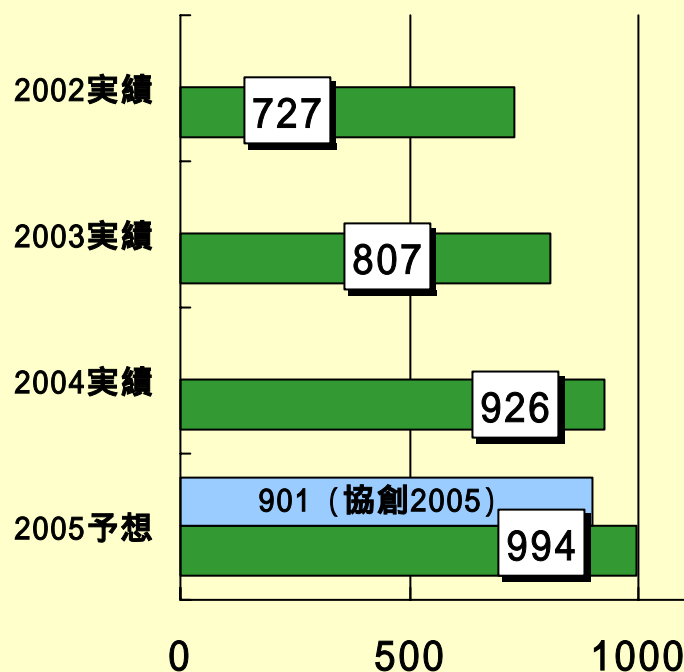
MXナイロン

・欧米のペットボトル向けが好調
一方、国内延伸フィルム向けは堅調
・北米の生産拠点が完工
(MGCアドバンストポリマー; 生産能力 10,000t/y)

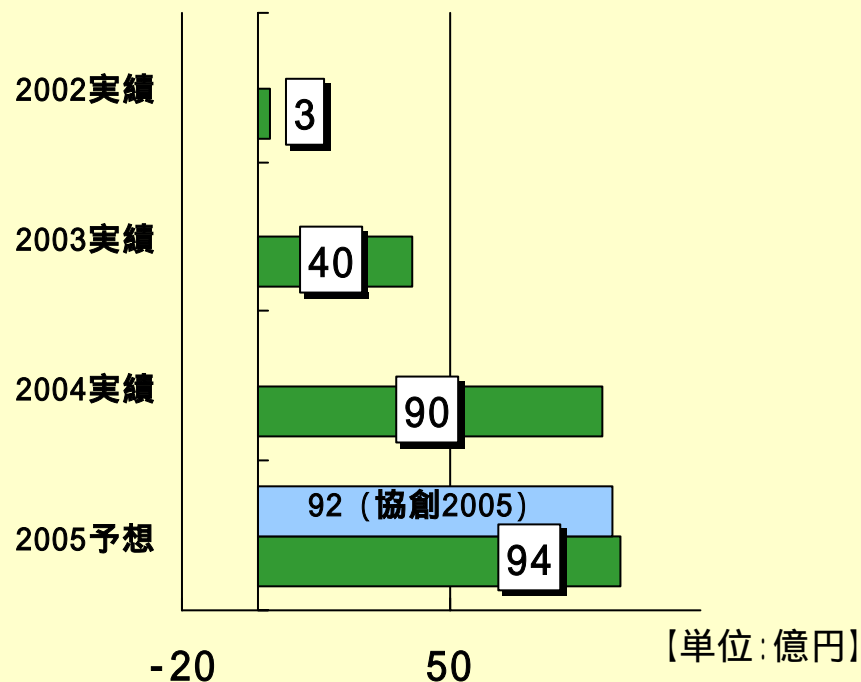
2005年度は
北米拠点の稼動により、MX
ナイロンの本格的な展開を図る

機能化学品カンパニー

売上高



営業利益



【単位：億円】

- 過酸化水素は販売数量が増加、収益も改善。
- 合成樹脂は、原料高騰に伴い販売価格も上昇、
需要も高水準で推移し、大幅に増収増益。

無機化学品事業

機能化学品カンパニー

工業用過酸化水素

- ・ 出荷数量の増加
紙パルプ業界の非塩素漂白 (ECF) 用途
新規工業薬品向けの大型用途
ヒドラジン用途が、自消 MGC大塚ヒドラジン向け外販
- ・ 設備改善による、原価低減

2005年度は、
需給のさらなる改善に
向けた対応

エレクトロニクス向け化学品

- ストレートケミカルス (超純過酸化水素、超純アンモニア水)
半導体関連産業の好調を受け上期は堅調、下期は鈍化
(通期では増収・増益)
- パフォーマンスケミカル (ELMクリーン、化学研磨液)
新規開発の薬剤が順調に成長、既存製品も堅調

2005年度は、
国内・米国向けが
好調の見込み

合成樹脂事業

機能化学品カンパニー

ポリカーボネート

- ・原料(ビスフェノールA)価格の高騰に伴い、販売価格が上昇
- ・国内外とも需要好調(中国市場の拡大)
- ・シート、フィルムは好調

- ・2005年度も、基調は同じ
- ・既存拠点の強化
- ・中国での生産を検討

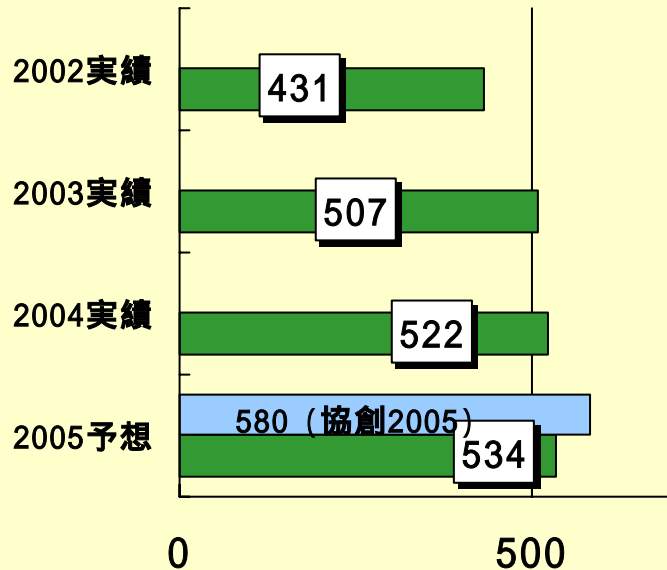
ポリアセタール

- ・原料(ホルマリン、メタノール)価格の高騰に伴い、販売価格が上昇
- ・国内外とも需要好調
- ・タイポリアセタールは増強後の能力で、フル操業が続く

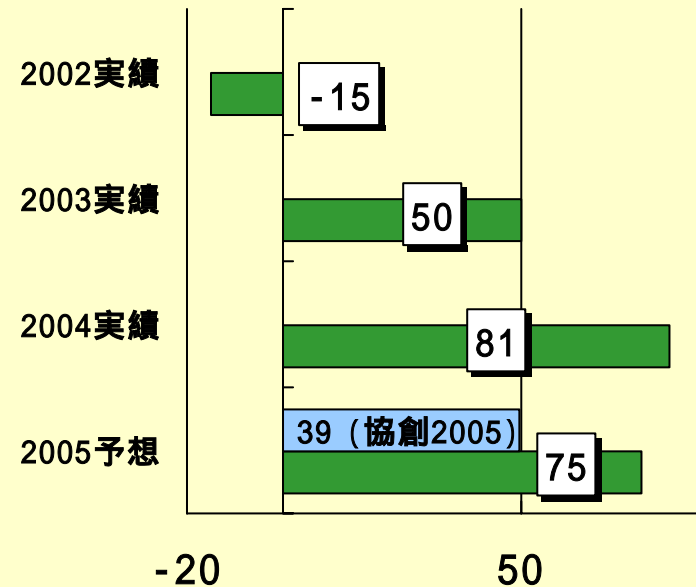
- ・2005年度も、基調は同じ
- ・PTM南通が本格稼働、ただし連結対象外

特殊機能材カンパニー

売上高



営業利益



【単位:億円】

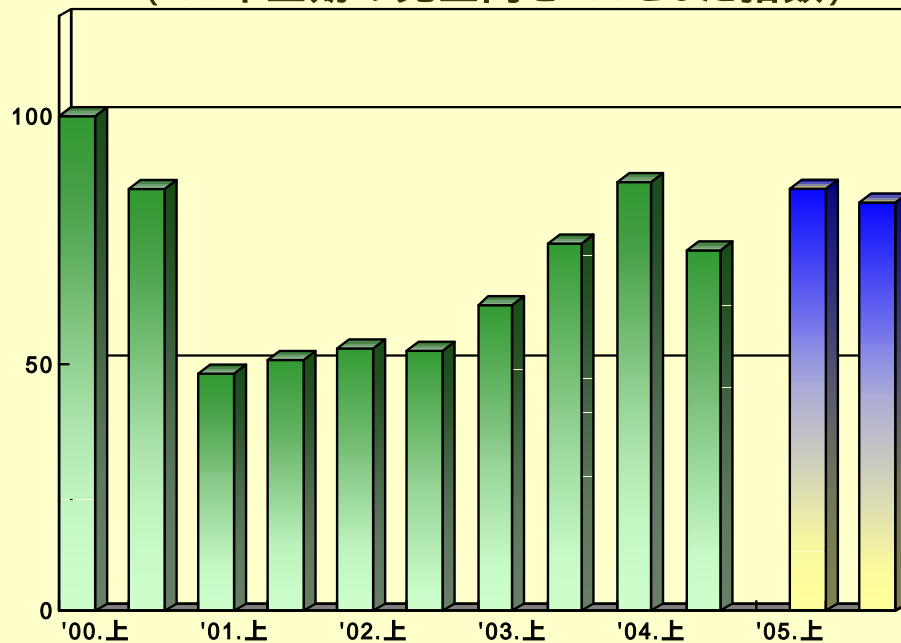
- 脱酸素剤事業は堅調。
- 電子材料は上期好調も、下期はユーザーの調整局面を受け軟化。
- 磁性ガーネット単結晶膜事業のアライアンス。

電子材料販売推移

特殊機能材カンパニー

電子材料売上高の推移

('00年上期の売上高を100とした指数)

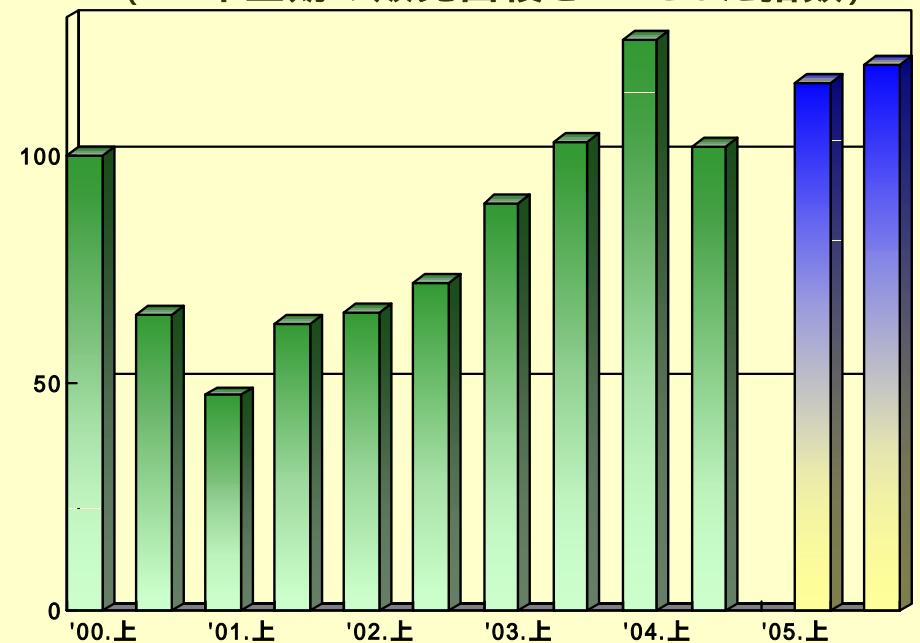


■ 実績

■ 予想

BT系銅張積層板販売数量の推移

('00年上期の販売面積を100とした指数)



■ 実績

■ 予想

事業の強化

特殊機能材カンパニー

電子材料事業の強化

2004年3月：電材生産を東京工場からエレクトロテクノ(株)へ移管

2005年3月：エレクトロテクノ(株)の生産能力増強

- ・エポキシは汎用品から高機能品にシフト
- ・BT材はメモリーパッケージング材料用途に展開

2005年3月：(株)ダイヤテックを売却

2005年度：日本サーキット工業(株)で高難度CSP対応ラインが本格稼動

磁性ガーネット単結晶膜事業

2004年9月末：フォトクリスタルの吸収合併(2004年9月末)

2005年4月1日：住友金属鉱山(株)と合併会社設立 (株)グラノプト

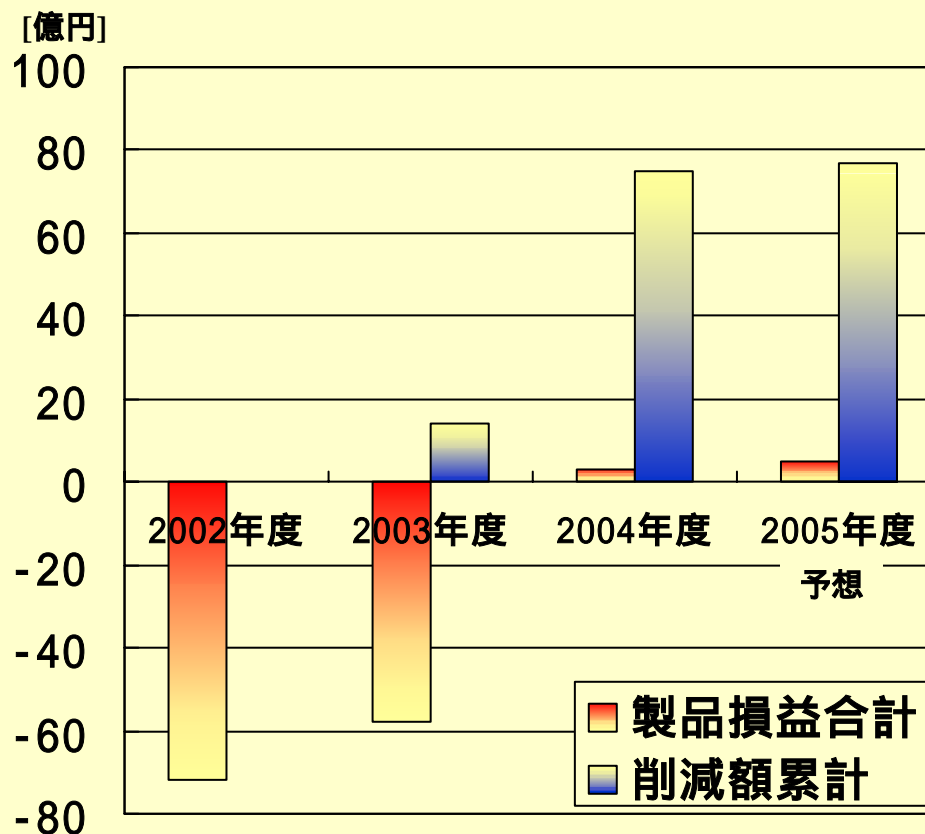
6月を目処に新社で生産開始

協創 2005進捗状況(1) 赤字製品対策

中期経営計画目標

2002年度製品損益実績 70億円を
2005年度末までに損益トントンに

1年前倒しで達成



協創 2005進捗状況(2) 2004年4月～実施項目

赤字製品対策

- ・ヒドラジン事業のアライアンス
- ・磁性ガーネット単結晶膜事業のアライアンス
- ・エチルアミン自社生産からの撤退

事業の強化

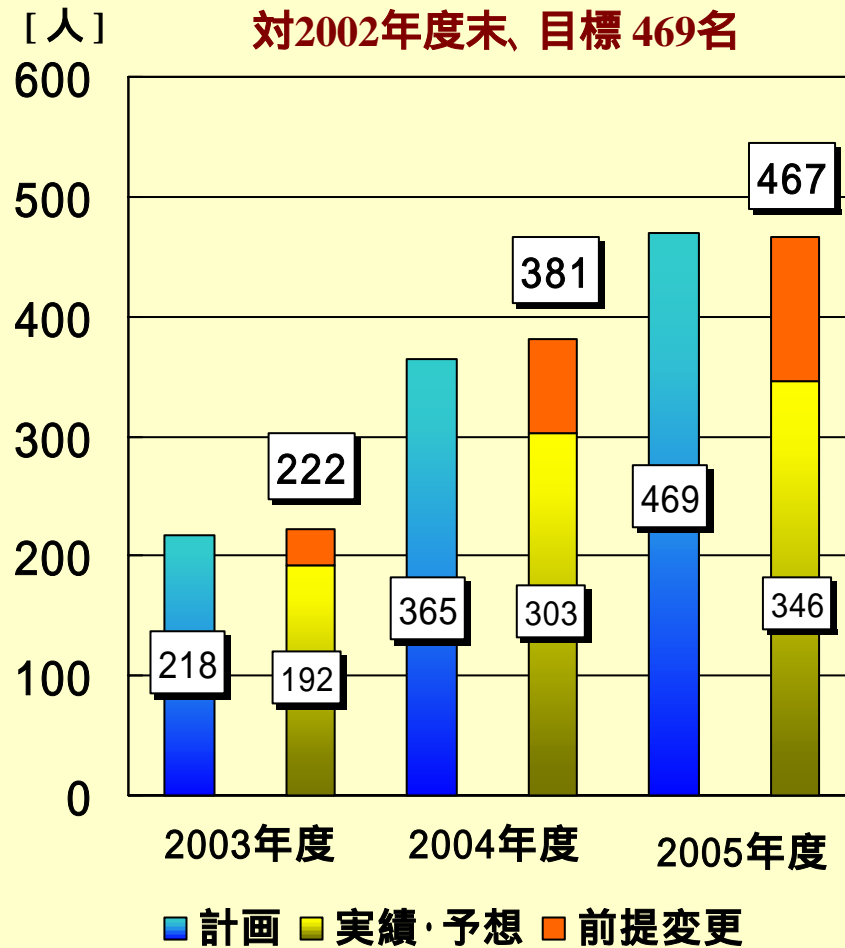
- ・エレクトロテクノの生産能力増強
- ・新潟工場超純安水の生産能力増強
- ・中国にポリアセタール生産拠点を建設
- ・米国にMXナイロン生産拠点を建設

経営の効率化

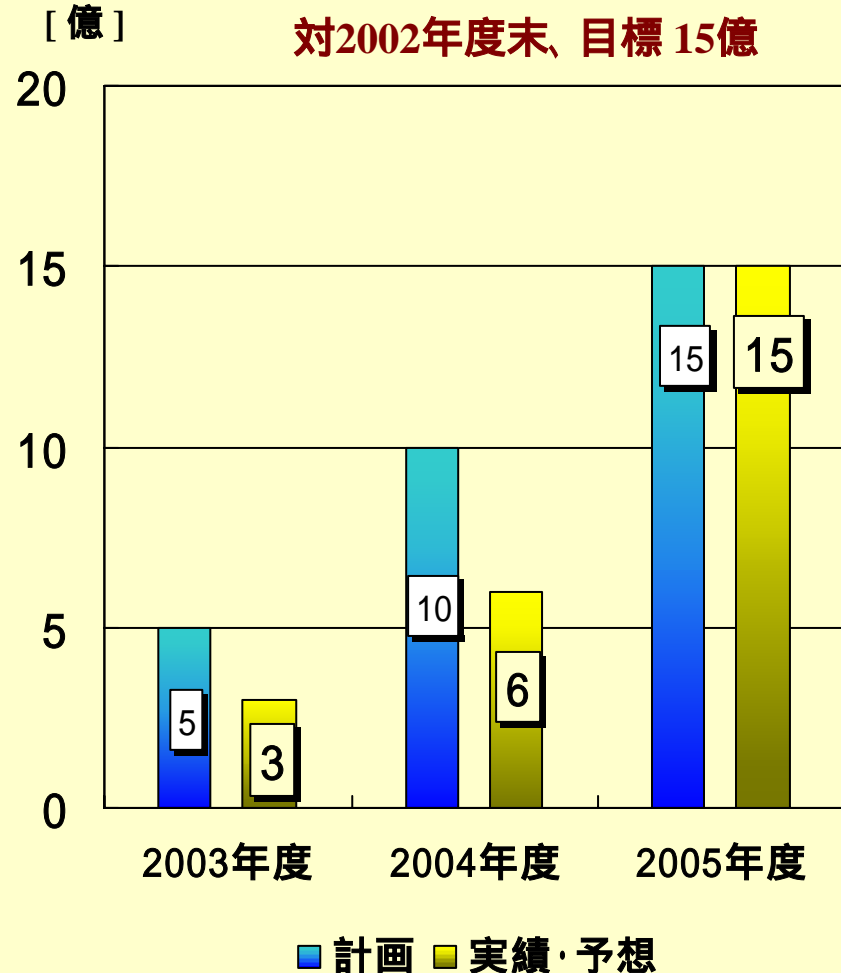
- ・MGCファイナンス(株)の設立
- ・研究所の集約化
- ・分析センターの設立
- ・工務業務のセンター化
- ・受注業務のセンター化

協創2005進捗状況(3)

連結人員の減少(累計)
対2002年度末、目標 469名



物流費の削減(累計)
対2002年度末、目標 15億



連結 2005年度業績予想

(億円)

	2005年度 予想	2004年度	増減
売上高	4,050	3,886	164
天然ガス系化学品	1,069	1,052	18
芳香族化学品	1,102	1,051	51
機能化学品	994	926	68
特殊機能材	534	522	12
コーポレート	351	336	15
営業利益	300	309	9
天然ガス系化学品	73	67	6
芳香族化学品	68	78	10
機能化学品	94	90	4
特殊機能材	75	81	6
コーポレート	9	6	3
経常利益	380	377	3
税引前利益	340	293	47
当期純利益	250	233	17

中長期的課題と方針 ~次期中計に向けて~

メタノール海外拠点拡充の推進

既存拠点の増強・・・AR-RAZI (第5期、170万 t / y)、Metor (第2期、85万 t / y)
アジア新拠点の展開・・・ブルネイ (85万 t / y)、重慶 (85万 t / y)

拡大する中国市場での事業展開 ~市場の開拓・新規顧客の獲得~

中国国内市場の開拓、新規顧客の獲得・・・上海事務所 (2005年3月に開設)
現地生産の具体化・・・過酸化水素、メタノール誘導品、合成樹脂など
リスク対策

競争優位事業の強化と拡充

メタキシレン/メタキシレン誘導品事業・・・MXナイロンを本格的に世界展開
新規誘導品の開発 / 新規用途の展開
合成樹脂・・・PCフィルム / 偏光シート他、川下事業の拡充
電子材料事業・・・生産設備増強の検討
エージレス・・・海外生産拠点(エージレスタイランド)の増強と国内委託先の再編

中長期的課題と方針 ~次期中計に向けて~

構造改革による競争力の確保

パラキシレン事業

オルソキシレン - フタル酸事業

合成樹脂事業(素材部門)

過酸化水素事業

経営基盤の強化

財務基盤の強化

人材の確保・育成

研究開発の促進

生産技術の改良

主要原材料の安定かつ優位な調達体制の強化

お問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社

広報IR部(佐藤、輿石)

TEL 03 - 3283 - 5041

FAX 03 - 3287 - 0833

<http://www.mgc.co.jp/>

E-mail: infoir@mgc.co.jp

<見通しに関する注意事項>

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。